

グローバル共創科学部の新しい学びがSTART!

静岡大学では27年ぶりの新学部。1年生が入学し、授業がスタートしたばかりですが、今後のカリキュラムも気になります。学部の教員や1期生へのインタビューを通して、紹介します。

専門性を発揮しつつ、他者を尊重し、共創できる人を育てたい

一つの課題を解決するとき、さまざまなアプローチ方法があることをこの学部では学んでほしいです。
例えば、災害の被害を軽減するためには、災害を予測し土木工学的に対応する

理系の対策もある一方、避難所の運営など多様な人が集まる場では、文系の力も大変重要になります。

私たちが、カリキュラムを考える際に最も意識したのは、自らの専門性を発揮しつつ、多様な立場の人を尊重し、課題の解決のために実働できる人を育てたいということです。それが、学部の名称にもある「共創」です。理系・文系含む専門が異なる教員が一つの授業を担当したり、現場の専門家を招いたり、ユニークな授業をたくさん設定して、そんな人材を育てたいと思っています。

「学びのアドバイザー」が学生1人ひとりをまめ細やかにサポート

本学部は、柔軟に幅広く学べるのが魅力。学びのルートづくりにも選択肢が多く、年4回の面談のほか、随時、相談対応を行う体制を整えています。



**グローバル共創科学部
教務委員長(カリキュラム担当)
堂園 俊彦 教授**

**グローバル共創科学部長
池田 恵子 教授**

学生たちに興味がある社会課題について聞きました

貧困問題

貧困問題の解決に向けて、制度やルール作りだけでなく、自分を含めて、個人に何ができるのか、興味があります。

循環型社会

幼い頃、ゴミになると感じていたものが、新しいものに生まれ変わることを知り、資源の循環に興味を持ちました。この学部で深く学びたいです。

日本の食糧問題

高校時代に部活で体づくりをする際、「食」の大切さを学びました。実家が農業を営んでいることもあり、日本の食糧問題に興味があります。

授業 Report

第一線で活躍するアーティストと学ぶ「アートシンキング・デザインシンキング」

講師は、岡田利規・金田実生・辻琢磨・吉開菜央・岩井優ら、第一線で活躍しているアーティスト。その発想力に直接触れながら、アートという言葉で思考・発想する方法を学びます。多様な価値観を持つ人々と協働しながら、どれだけ柔軟に発想できるか。あらゆる視点から社会と向き合うアーティストの鋭いまなざしは、ますます複雑化する未来を考えるヒントになることでしょう。

**グローバル共創科学部
立花 由美子 講師**



© Osamu WATANABE

現場の人々と共創するフィールドワーク

新入生セミナーでは、静岡市内でフィールドワークを行いました。実際に街に出て、現場の関係者とともに社会的課題の解決に向けて協働していく「コラボラティブ・ワークス」が2年生から始まります。その事前学習として、実施しました。



「学生の声」



真壁 陽人

フィールドワークを通して、静岡市が商業的に昔から栄えてきたことを知り、魅力を再発見できました。近年、人口減少や商店街の衰退などの課題に直面していることも実感し、今後の学びにつなげたいと思います。

静岡市内でフィールドワークを行う新入生

グローバルに活躍を! 英語は3年前期まで必修

実践的な英語教育に力を入れており、3年生の前期まで必修科目をネイティブ教員が担当します。短期および長期の海外研修プログラムもあります。



木曜午後のクラスアワーではネイティブ教員や留学生と英語で話すイベントを実施

LGBTQ

中学生の頃に読んだ小説を機に、調べるようになりました。同性婚が認められている国もある中、日本で認められないのはなぜ?と疑問を持つようになりました。

災害問題

熊本地震を経験しました。気候変動による災害も増えていきます。新学部で問題を多角的に見る力を身につけ、解決の糸口を探したいです。

持続可能なまちづくり

自分が住んでいる地域の過疎化がどんどん進んでいます。ずっと住み続けたいので、そのためには何が必要か学びたいです。

介護の問題(介護従事者不足)

家族が介護の仕事をしているので、介護現場の人材不足はとても身近な問題です。